

ギャンブル書とカジノ産業の問題点

滝口 直子

(たきぐち・なおこ)

大谷大学 教授

ギャンブル依存症は生活上の

様々な困難——借金、自殺(未遂)、暴力や虐待、不眠、鬱など、

ここでは「ギャンブル書」と称する

——を生み出す疾患であり、ギャン

ブラー本人や家族、社会にまで、

そして世代をこえてまで負の影響

を及ぼす国民の健康問題である

(Browne et al. 2017)。国民の

健康に関わる問題であるなら、そ

の解決には公衆衛生からのアプローチ

、何よりもギャンブル書を生じ

させない対策の立案・実施が必要

である。そのためにはまず、ギャン

ブル書がどの程度社会に影響を与

えているのかを私たちは知る必要

がある。

ギャンブル書の可視化を

ギャンブル書を可視化するには

その測定が必要である。ギャンブル

害という馴染みのあるのは有病

率研究である。我が国では国レ

ベルの有病率が発表されている(樋

口・松下 2017)。国レベルの有病

率研究は必要であるが、有病率は

社会が負担するギャンブル害につい

てはそれほど教えてくれない。ギ

ャンブル害はおそらく国の中で均

一に分散しているのではない。ギ

ャンブル問題は社会経済的な弱者

の間で悪化しやすいとされている

(Rogers et al. 2019)。同じ金額

をギャンブルで失っても富裕層には

単なる遊びでも、弱者には「大切

な生活費、借金の返済にあてる」

はずのお金なのである。イギリス

やオーストラリアの研究では、弱者

の住む地域にはギャンブルの機会

が多く設けられていると指摘され

る(Rintoul & DeLaquiere 2019,

Rogers et al. 2019)。我が国でも

どの地域にギャンブルの機会が集

中しているのか、どの地域(あるい

はグループ)がギャンブル依存症に

脆弱性を示すのか、社会・経済的

構造を見ていく必要がある。

さらにギャンブルが依存症の域

にまでならなければ、社会にコスト

を負わせないのであるか。ビクト

リア州(オーストラリア)の研究は、

依存症にまで至らないギャンブル

が社会コスト全体のおよそ60%を

占めることを示している(Browne

et al. 2017)。私たちはまずギャン

ブルが社会に与える害の全体を知

る必要がある。すなわちギャン

ブル書の全体像を可視化する社会コ

スト研究であり、筆者を含めた研

究チームは2020年の4月から

この研究に取り掛かる予定である。

自己責任と恥意識…治療を

求める際の障壁

ギャンブル依存症という疾患に

社会は大きなステイグマ(烙印)を

はり付けている。ギャンブラーも

家族も、手痛い目に遭うまではな

かなか回復の場に登場しない。自

分たちでなんとかギャンブルがつく

り出した負の結末を乗り越えよう

と努力をする。「この借金さえ

片づけば」と本人は一発逆転を狙

ってギャンブルを続け、家族はその

肩代わりに必死になる。本人や家

族の恥意識はとても強い。長年ギ

ャンブルをやめ続けている人でさ

え、「ハマったのは自分の責任、自分

で解決する責任がある」と言い、

家族も解決は家族の責任と信じ

込んでいる。残念ながら日本には

家族の誰かの不祥事の責任を家

族全員に求める傾向がある。

「職場の使い込みが世間にバレ

たら、子供たちも学校に行けなくなる。なんとかバレる前に穴埋めしないと」——。ステイグマや恥意識が、本人や家族が支援を求める際にどの程度障壁になっているか、どの程度家族を追い詰める要因になっているか、研究する必要がある。これは社会の課題である。

ギャンブルにハマることについてギャンブラー個人の責任が全くないとはいえない。しかし社会・経済の構造的な特徴に注目することなく、本人や家族の治療のみに焦点を当てることは、社会構造上の問題を見逃すことになりかねない。

先に述べたように社会経済的弱者はギャンブル問題に脆弱性がある。さらにギャンブルといってもその依存性はいろいろである。世界的に宝くじはそれほど問題を起さないが、連続的に賭け続けることのできるギャンブル、例えばギャンブルマシンの依存性が強いとされる。日本の有病率研究でも生涯の有病率は3・6%、そのうち2・9%はパチンコ・パチスロにもっともお金を使ったとされている(樋口・松下 2017)。

カジノに置かれたギャンブルマシンの依存性を強める特徴としてスピードの速さ(1ゲームおよそ3秒)、ニアミス(もう少しで大勝ちだったのに)、勝ちと間違っ負け(賭けた額より勝った額は少額であるが、音や光で勝ちを祝ってもら

える)などの特徴が挙げられている。さらには自然光がほとんど入っていない、薄暗いフロアにズバリと並んだマシーン、その画面に集中していると、プレイヤーは時間感覚を喪失してしまふ(Sulkunen et al. 2019, シェール 2018)。

さらにお金へのアクセスの容易さもギャンブルの流行を促す要因である(Sulkunen et al. 2019)。以前は消費者金融からお金を容易に借りることができた。「自分の貯金をひきだす感覚でお金を借りていた」というギャンブラーの言葉が示すように、予定していたギャンブル費用を使った後でも容易にお金を入手できるなら、負けを取り戻したいギャンブラーは、ギャンブルを続行するであろう。ここで取り上げたのが構造的要因の全てではないが、ギャンブル害の低減を望むなら、ギャンブル害を生み出す構造に注目し、それを変えていく対策が必要である。

政府は国民の健康な生活を守ることができるのか？

産業の収入はギャンブラーの負けたお金の総額である。その中でも問題あるギャンブラーの貢献度は高い(Productivity Commission 2010)。ギャンブル産業はギャンブル問題への対策を実施していると主張する。いわゆる「責任ギャンプリング」である。し

かしお得意様を失ったとしても、収入を減らすという痛手を負ったとしてもギャンブル害を大幅に低減させる対策など、実施するものであろうか？ 全く問題のないギャンブルは自分の収入の3%程度までといわれている(Hodgins 2019)。この限度を守った事業者は、競争の激しい業界でビジネスを継続させることができるのだろうか？ ギャンブル産業、ことに大規模なカジノは、その存続のためには問題ギャンブラーを必要とするであろう。そして行政は、産業からの税収を期待するなら、産業が繁栄することを期待せざるを得ない。ヨーロッパの福祉国家でさえギャンブルが引き起こす問題の解決のためにはより多くの基金が必要であり、そのためにはギャンブル産業の振興を期待せざるを得ないという悪循環ループが成立しつつある(Sulkunen et al. 2019)。ギャンブル問題解決のために、ギャンブル産業の振興をはかるのはおかしな話である。もう一つおかしな話は、ギャンブルに起因する害が社会に課すコストは、その収入より大きいことである(例、Browne et al. 2017によるオーストラリア・ビクトリア州の研究)。

ギャンブル依存症ゼロを目指して、ギャンブル産業を実効性ある方法で規制した国はノルウェーである。原油輸出国のノルウェーは

ギャンブル産業からの税収に依存する必要はないだろう。オーストラリアはギラード政権の時に実効性ある規制を設けようとしたものの、それは失敗に終わっている(ABC News, 2012.1.23)。ギャンブル産業からの税金に期待する限り、果たして政府は産業に痛手を与えてまで規制を強化するのだろうか？ 規制が強化されないとしたら、国民の健康的な生活は守られるのだろうか？

ギャンブル害のない社会を目指すには世界的枠組みが必要

ギャンブル産業、ことに大規模カジノはグローバル産業である。一つの国をこえて人々の生活に影響を及ぼしている。例えばカンボジアやフィリピン、シンガポールのカジノにアジアの人は容易にアクセスできる。香港から30分、橋を渡ればマカオである。アジアのみならずアフリカは今後、有望なギャンブル市場とみなされている。オンラインギャンブルとなると小さな島国でも全世界の顧客をターゲットにすることができ、国境をこえたところで運営されているオンラインギャンブル産業は、そう簡単には管理できない。

ギャンブル害を生じさせないような世界的な規制の枠組み——タバコのような——が必要となってくる。タバコは喫煙と害との直

接の因果関係を証明することが可能であったが、ギャンブルはそれが困難である。例えば、もともと発達障害の人がギャンブルで生活が破綻したとしたら、破綻のどの部分がギャンブルに起因するものであり、どの部分が発達障害によるものか、えり分けるのは難しい。ただギャンブルが生活破綻の大きな要因であるのは間違いない。

WHOがギャンブル問題に焦点を当てた第1回の会議を開いたのは、昨年になってからである(Meeting on public health implications of gambling and gambling disorders 2019, 22.4 Istanbul)。国内のギャンブル問題であったとしても、それは国内だけでは解決が難しい。今後は世界的枠組み(その主役がWHOであるが、他の世界的機関であれ)形成がギャンブル問題に取り組むには必須となろう。

参考文献
 ABC News. Gillard defends tearing up pokies deal. 2012. <https://www.abc.net.au/news/2012-01-23/gillard-defends-pokies-trial/3787500>
 Browne, M., Greer, N., Armstrong, T., Doran, C., Kinchin, L., Langham, E. & Rockloff, M. The social cost of gambling to Victoria. Victorian Responsible Gambling Foundation. 2017
 Engebø, J. 責任ギャンプリングおよびノルウェーにおける規制の実際。ノルウェーギャンブル規制局、上級顧問。2017年9月12日(東京における講演会資料)
 樋口准・松下幸生 国内のギャンブル等依存に関する疫学調査「ギャンブル障害の疫学調査、生物学的評価、医療・福祉・社会的支援のありかたについての研究」2017
 Hodgins, D. Advising Gamblers: development of lower-risk gambling guidelines. SNSUS Conference 2019
 Productivity Commission, Gambling, Inquiry report, Australian Government, 2010
 Rintoul, A. & Deblaquiere, J. Gambling in Suburban Australia. Research Report, Australian Institute of Family Studies. 2019
 Rogers, R., Wardle, H., Sharp, C., Dymond, S., Davies, T., Hughes, K., Astbury, G. Framing a public health approach to gambling harms in Wales. Bangor University 2019
 Sulkunen, P., Babor, T., Ormberg, J., Egerer, M., Hellman, M., Livingstone, C., Marionneau, V., Nikkinen, J., Orford, J., Room, R. & Rossow, I. Setting Limits. Oxford, 2019
 シュール, ナターシャ D. デザインされたギャンブル依存症(日暮雅通 訳) 青土社 2018